International University of Health and Welfare
国際医療福祉大学

NEWS RELEASE

報道機関　各位

2023 年 4 月 5 日
学校法人 国際医療福祉大学

覚醒剤による脳神経変化の時期を毛 1 本から検出することに成功

研究成果のポイント

- 覚せい剤の服用は生体に投与を予知させる神経回路を出現させるが、その効果をヒゲ 1 本のサンプルから検出することに成功した。
- この予知行動リズムは毛の時計遺伝子 *Period* 1(*Per 1*)の発現変化により検出でき、今後の覚せい剤関連研究に大きく貢献できる。

研究成果の概要

毎日一定時刻にマウスやラットに覚醒剤を投与すると、投与の数時間前から活動量が増加し、体が何時に覚醒剤を投与されていることを予知しているような予知行動リズムが誘発される。予知行動は覚醒剤投与により脳内に新たな神経回路が形成され発現すると考えられ、覚醒剤の脳神経に作用する機構解明にもつながる。予知行動形成には時計遺伝子の発現誘導が伴うことが報告されているが詳細な機構は明らかとなっていない。今回、簡易的かつ非侵襲的に予知行動形成を毛 1 本から解析する計測システムを開発し、予知行動形成時期は毛の時計遺伝子 *Period1*（*Per1*）発現変化で検出でき、覚醒剤投与 3 日目に形成されることを明らかにしました。今後、覚醒剤による予知行動形成機構および覚醒剤関連研究に大きく貢献できる可能性が考えられます。この研究成果は国際医療福祉大学薬学部の浜田俊幸 准教授が中心となって実施し、*cells* 誌に発表されました。

論文発表の概要

研究論文名：

Analysis of the Anticipatory Behavior Formation Mechanism Induced by Methamphetamine Using a Single Hair(毛 1 本をもちいたメタンフェタミン投与により誘発される予知行動形成機構の解析)

著者, 所属：Sato R[1], Kanai M[1], Yoshida Y[1], Fukushima S[1], Nogami M[1], Yamaguchi T[1], Iijima N[1], Sutherland K[2], Haga S[2], Ozaki M[2], Hamada K[1], Hamada T[1,2,3]（佐藤璃育[1]，金井恩熙[1]，吉田幸那[1]、福島汐里[1]，野上将太[1]，山口剛史[1], 飯島典生[1], ケネス・リー・サザーランド[2], 芳賀早苗[2], 尾崎倫孝[2], 浜田和子[1], 浜田俊幸[1,2], [1]国際医療福祉大学、[2]北海道大学）

公表雑誌：*cells* 12(4), 654, 2023

（背景）

覚醒剤メタンフェタミン(MAP)を毎日一定時刻に投与すると、投与の数時間前から行動が活発になる予期行動[1]が出現する。MAP 投与休止後の継続性から脳内に神経回路が形成されたことが考えられる。予知行動形成には、線条体などの組織で *Perio1*(*Per1*)発現が MAP 投与により惹起され発現リズムの位相変化がともなうことが報告されているが、予知行動を誘発する神経回路がいつ形成されるかは不明である。本研究では毛 1 本から簡易的かつ非侵襲的に時計遺伝子発現変化をとらえる実験系を確立し、MAP 投与から神経回路がいつ形成されるか検討した。

（研究手法）

我々は、時計遺伝子 *Period1*（*Per1*)プロモーターと *luciferase*（*luc*)遺伝子を連結したものをもつ *Per1-luc* トランスジェニックマウスをもちいて糖尿病の発症時期および重篤化のステージ判定が、毛の *Per1* 発現計測で可能であること報告している(Hamada et al., BBRC,2021)。糖尿病を誘発するストレプトゾトシン(STZ)を単回腹腔内投与した時に、μPMT[2]をもちいて頭毛とひげの *Per1* 遺伝子発現が変化[3]する過程を調べることで糖尿病未病段階、発症初期段階、重篤化を判定できる。今回、本システムをもちいて、一定時刻(am11 時：ZT3)に MAP 投与し投与時刻に生体リズムが同調する過程において　毛 1 本から生物発光計測[4]を利用し、簡易的かつ非侵襲的に時計遺伝子発現変化をとらえる実験系を確立し、MAP 投与から神経回路がいつ形成されるか検討した。同時に赤外線センサーにより睡眠行動リズムを計測した。

（結果）

MAP 投与後、予知行動リズムが発現し、その後 MAP の投与無しの時期にも観測された[1]。頭毛およびひげの毛嚢付近に *Per1* 遺伝子が、強く発現していることを免疫組織学的に確認した後、発現量の定量を生物発光計測で行った。サンプリングした頭毛およびひげの細胞抽出液からそれぞれ MAP 投与 4 日後、3 日後で *Per1* 遺伝子発現有意な上昇を検出できた。さらにひげ 1 本をサンプリングして直接計測する直接法も確立した。形成された予知行動リズムは MAP 投与中止後少なくとも 9 日間継続した。

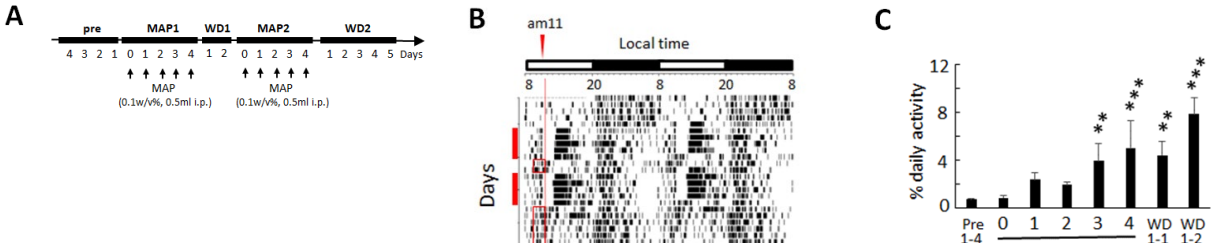
（考察）

MAP 投与による予知行動形成機構を毛 1 本から解析するシステム構築に成功した。*Per1* 発現の結果より神経回路形成は MAP 投与から 3 日で形成される可能性が考えられた。またサンプリングから 5 分で解析できる直接法は、毛を利用した様々な疾患発症解明研究に応用できるものと考えられる。

［用語説明］

1. メタンフェタミン投与による予知行動形成 (Sato et al., cells, 2023)

メタンフェタミンを図 A のスケジュールで am11 時に投与した行動リズムを図 B に示す。メタンフェタミン投与前は活動量が夜高く、昼低い活動リズムがみられる。メタンフェタミン投与後は活動量増加が、投与後 6 時間ほど続き、昼活動量が高く、夜低い活動リズムに変化する。しかしながらこの活動量増加はメタンフェタミン投与を休止すると消失するため、メタンフェタミン直接作用によるものと考えられる。対照的にメタンフェタミンの投与を続けると、投与時刻の am11 時より数時間前に活動量が増加し、メタンフェタミンの投与を休止しても活動量の増加は誘発され、少なくとも 9 日間は継続する（図 B の赤□部位)。1 日の総活動量に対する am9-11 時の活動量（%）を図 C に示す。メタンフェタミン投与 3 日目から有意に活動量が増加する。メタンフェタミン投与休止からの行動量の増加の継続性とメタンフェタミンの血中半減期を考慮すると、メタンフェタミン投与による予知行動形成には、脳内に新たな神経回路などの形成が関与している可能性が考えられる。



メタンフェタミン投与による予知行動形成

A　メタンフェタミン(MAP)投与スケジュール　メタンフェタミンはam11時に腹腔内投与している。投与初日をday0としている。Pre:メタンフェタミン投与前、MAP1, MAP2:メタンフェタミン投与、WD1, WD2: メタンフェタミン投与無

B　12時間明、12時間暗の明暗サイクル（am8時にライトON, pm20時にライトOFF）条件下でのダブルプロット行動リズム（赤外線センサーにより計測）を示し、横軸は連続した日の時刻を、縦軸は日を表す。縦軸の赤棒部位にメタンフェタミンを投与している。黒い部位はマウスが活動していることを示す。メタンフェタミン投与時刻であるam11時前から活動量が増加している。活動量増加はメタンフェタミン投与無しの時期も発現する（赤色□）。

C　メタンフェタミン投与による予知行動形成。1日の総活動量に対するam9-11の2時間の活動量を%で示している。

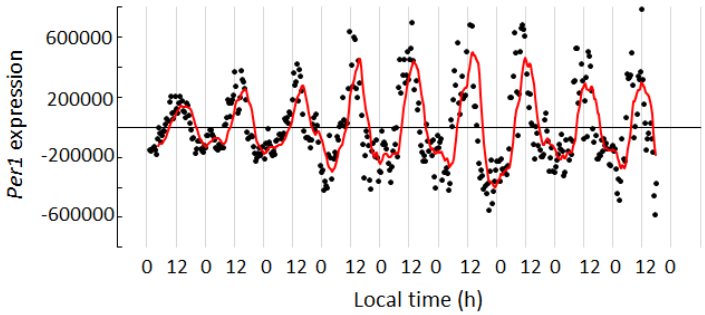
2. 世界最少光電子増倍管（micro PMT:μPMT, 浜松ホトニクス）

光電子増倍管は光センサーの中でも極めて高感度、高速応答な光検出器です。μPMT は、シリコン基板を 2 枚のガラス基板で挟み込んだ 3 層構造で構成されているため小型 PMT の形状をとることができる。1mmx4mm の光電面を介して光量を計測する。

我々はμPMT をもちいて、*Per1* 遺伝子発現を *in vivo* 及び *in vitro* の実験で、計測することに成功している。

***In vivo* 計測：自由行動マウスの背中皮膚における *Per1* 遺伝子発現リズム計測**

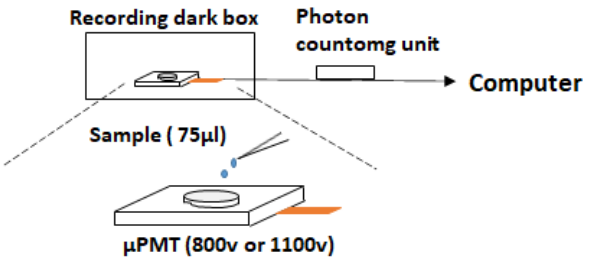
μPMT をマウス皮下に移植し、*Per1* 遺伝子発現を自由行動しているマウスから計測したものを以下に示す。マウスの行動に影響を与えることなく長期間 Per1 遺伝子発現をリアルタイムに計測している(Hamada K et al., Biophys. Res. Commun. 577, 64-70. 2021)

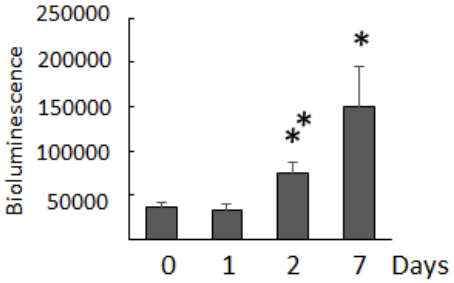


In vitro 計測：マウス毛からの *Per1* 遺伝子発現計測

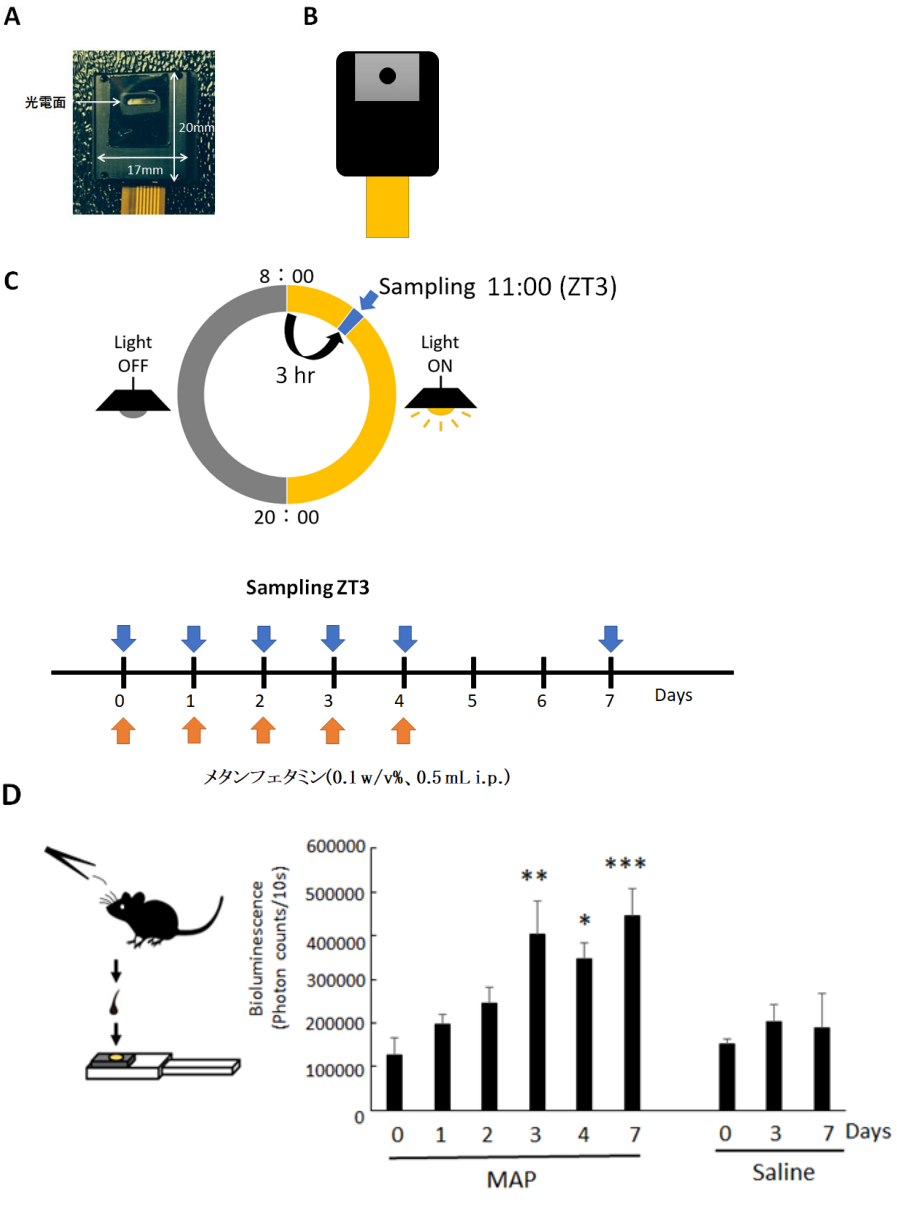
我々は毛の *Per1* 遺伝子発現を計測することで、糖尿病の進行度を検出することが可能であることを報告した (Hamada K et al., Biophys.Res.Commun. 577, 64–70. 2021)。左下図はμPMT をもちいた毛の *Per1* 遺伝子発現計測システムを示している。毛からの細胞抽出液をμPMT 光電面にのせて *Per1* 遺伝子発現を計測した。

右下図はμPMT によるヒゲ 1 本からの *Per1* 遺伝子発現を定量化したものを示す。糖尿病誘発薬ストレプトゾシン(STZ)を投与した日を day0 としている。Day2 は血糖値が 400mg/dl 付近になり糖尿病を発症する時期である。ひげの *Per1* 発現は糖尿病発症時期に増加する。





3. *Per 1*遺伝子発現解析によるメタンフェタミン投与による予知行動形成機構の解析



μPMTを用いた毛の*Per1*遺伝子発現の解析
A　μPMT (H12400-00-21, 浜松ホトニクス)。
B　本研究に使用したμPMT。Aのμ PMT光電面上に丸穴をもつものを取り付けた。サンプリングした毛（あるいは細胞抽出液）を入れ、*Per1*遺伝子発現量を計測した。
C　メタンフェタミン投与と毛サンプリングスケジュール。毛のサンプリングはメタンフェタミン投与直前に行った。
D　サンプリングした毛を直接計測する直接法による*Per1*遺伝子発現計測。
メタンフェタミン投与3日目に有意な発現上昇が検出された。

4. 生物発光計測

ホタルの光に代表される生物発光を用いた計測手法。ルシフェラーゼ（発光酵素）と発光基質ルシフェリンによる反応により発光が生じる。

国際医療福祉大学

「『共に生きる社会』の実現」を建学の精神とし、1995年に栃木県大田原市に国内初の医療福祉の総合大学として開学。現在、大田原市、千葉県成田市、東京都港区、神奈川県小田原市、福岡県大川市の5キャンパスに10学部26学科を持ち、大学院生を含め約1万人の学生が学んでいます。これまでに約3万2000人の卒業生を輩出し、高い国家試験合格率や就職率で日本屈指の実績を挙げてきております。2017年4月、千葉県成田市に医学部を新設。1 学年140人のうち20人が留学生であることや1、2年次の大半の科目で英語授業を実施するなど、これまでにない革新的な医学教育を行い、国内外で活躍できる総合診療能力を持った医師を育成しています。今年3月に1期生が卒業し、同月に発表された医師国家試験で留学生15人を含む124人が合格。大学別の合格率は99.2%で全国2位となりました。

■本件についてのお問い合わせ先■
国際医療福祉大学 東京事務所 広報部
担当：赤津
TEL：03-5574-3828
E-mail：press@iuhw.ac.jp

国際医療福祉大学 薬学部 年齢軸生命機能解析学分野准教授
浜田　俊幸（はまだ　としゆき）
TEL：0287-24-3481
E-mail：toshi-ha@iuhw.ac.jp

cells

IMPACT FACTOR 7.666

Indexed in: PubMed

Article

Analysis of the Anticipatory Behavior Formation Mechanism Induced by Methamphetamine Using a Single Hair

Riku Sato, Megumi Kanai, Yukina Yoshida, Shiori Fukushima, Masahiro Nogami, Takeshi Yamaguchi, Norio Iijima, Kenneth Sutherland, Sanae Haga, Michitaka Ozaki et al.

Special Issue

Molecular Mechanism of Stress, Stress Response, and Adaptation

Edited by

Prof. Dr. Michitaka Ozaki

MDPI

https://doi.org/10.3390/cells12040654

cells

MDPI

Article

Analysis of the Anticipatory Behavior Formation Mechanism Induced by Methamphetamine Using a Single Hair

Riku Sato [1,†], Megumi Kanai [1,†], Yukina Yoshida [1], Shiori Fukushima [1], Masahiro Nogami [1], Takeshi Yamaguchi [2], Norio Iijima [2], Kenneth Sutherland [3], Sanae Haga [4], Michitaka Ozaki [4], Kazuko Hamada [1] and Toshiyuki Hamada [1,4,5,*]

[1] Department of Pharmaceutical Sciences, International University of Health and Welfare, Ohtawara 324-8501, Japan
[2] Center for Basic Medical Research, International University of Health and Welfare, Ohtawara 324-8501, Japan
[3] Global Center for Biomedical Science and Engineering, Hokkaido University, Sapporo 060-8012, Japan
[4] Department of Biological Response and Regulation, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University, Sapporo 060-0812, Japan
[5] Hakujikai Institute of Gerontology, 5-11-1, Shikahama, Adachi Ward, Tokyo 123-0864, Japan
* Correspondence: toshi-ha@iuhw.ac.jp; Tel.: +81-287-24-3481
† These authors contributed equally to this work.

Abstract: While the suprachiasmatic nucleus (SCN) coordinates many daily rhythms, some circadian patterns of expression are controlled by SCN-independent systems. These include responses to daily methamphetamine (MAP) injections. Scheduled daily injections of MAP resulted in anticipatory activity, with an increase in locomotor activity immediately prior to the time of injection. The MAP-induced anticipatory behavior is associated with the induction and a phase advance in the expression rhythm of the clock gene *Period1* (*Per1*). However, this unique formation mechanism of MAP-induced anticipatory behavior is not well understood. We recently developed a micro-photomultiplier tube (micro-PMT) system to detect a small amount of *Per1* expression. In the present study, we used this system to measure the formation kinetics of MAP-induced anticipatory activity in a single whisker hair to reveal the underlying mechanism. Our results suggest that whisker hairs respond to daily MAP administration, and that *Per1* expression is affected. We also found that elevated *Per1* expression in a single whisker hair is associated with the occurrence of anticipatory behavior rhythm. The present results suggest that elevated *Per1* expression in hairs might be a marker of anticipatory behavior formation.

Keywords: circadian rhythm; *Period1*; in vivo; luciferin; methamphetamine; anticipatory behavior

Citation: Sato, R.; Kanai, M.; Yoshida, Y.; Fukushima, S.; Nogami, M.; Yamaguchi, T.; Iijima, N.; Sutherland, K.; Haga, S.; Ozaki, M.; et al. Analysis of the Anticipatory Behavior Formation Mechanism Induced by Methamphetamine Using a Single Hair. *Cells* **2023**, *12*, 654. https://doi.org/10.3390/cells12040654

Academic Editor: Jens Hannibal

Received: 16 October 2022
Revised: 8 February 2023
Accepted: 13 February 2023
Published: 17 February 2023

1. Introduction

Circadian physiology and behavioral rhythms are regulated in mammals by a central pacemaker within the suprachiasmatic nucleus (SCN) located in the hypothalamus. Destruction of the SCN disrupts the rhythms of many physiological functions. Environmental light is the strongest zeitgeber for the circadian system. The SCN controls the phase of daily rhythms and synchronizes circadian system responses to environmental light. It also coordinates peripheral tissue activity rhythms [1,2].

It has been reported that drugs such as methamphetamine (MAP) are capable not only of entraining the circadian system, but also of driving rhythms in the absence of the SCN [3–6]. Scheduled daily injections of MAP result in anticipatory activity, with an increase in locomotor activity immediately prior to the time of injection. This phenomenon has been documented in both rats and mice, and robust increases in activity levels can be observed following the expected time of injection, even on a day when the drug is withheld [7,8]. The MAP-induced change in the normal circadian pattern of activity is associated with a phase in the expression of the clock genes *Period1* (*Per1*) and *Per2* within

the striatum and liver, but not the SCN [8]. Scheduled injections of MAP also reinstate behavioral circadian rhythms in arrhythmic SCN-lesioned animals [8]. These rhythms persist on withdrawal days and are associated with the reinstatement of circadian rhythms of *Per* expression in the striatum and liver of the SCN-lesioned animals [8]. These results suggest that the activity and clock gene expression rhythms driven by scheduled MAP injections are SCN-independent. Additionally, scheduled MAP injections are reported to shift the phase of peak clock gene expression in peripheral tissues around the time of the injection [8,9].

MAP-induced anticipatory activity is, at least in part, controlled by the dopaminergic system [10,11]. However, the formation mechanism of MAP-induced anticipatory activity is not well understood. As previously reported, MAP-induced elevated *Per1* expression is associated with anticipatory behavior. However, these data of MAP in the biological clock have been studied by measuring the clock gene expression rhythm of each tissue in the living body via sampling at specific times of the day, using methods such as polymerase chain reaction (PCR) and in situ hybridization, and analyzing gene expression from several animal tissues or using tissue culture after administering MAP [8,9]. With these methods, it was unclear when MAP-induced anticipatory activity developed after MAP injection. We previously reported that the *Per1* in the scalp and whisker hairs could be used as a marker of diabetic aggravation induced by the disruption of circadian clock gene expression [12,13]. In the present study, we examined whether the process of formation of MAP-induced anticipatory activity could be measured using simple and non-invasive methods to measure Per1 expression in the scalp and whisker hairs as a marker of the formation of anticipatory activity.

2. Materials and Methods

2.1. Animals

Mice were born and reared in our animal quarters. The environmental conditions were controlled as follows: 12 h light/12 h dark (LD) cycle with lights on at 8:00 and off at 20:00 (zeitgeber time (ZT) 0–12), temperature 23 ± 1 °C, and humidity 50 ± 5%. C57BL/6J mice carrying a *Per1*-promoter-driven firefly luciferase reporter gene (*Per1-luc*) were used [14]. The genetically modified mice used in this study and their handling methods were described in our previous study [13,14]. All animal work was performed in accordance with the Guidelines for the Care and Use of Laboratory Animals in the International University of Health and Welfare, with permission #18014 from the Committee for Animal Experimentation.

2.2. Methamphetamine Injection

Methamphetamine HCl (MAP) (Dainippon Pharmaceutical Co., Osaka, Japan), dissolved in saline (0.1 *w*/*v*%), was intraperitoneally injected at a fixed time (ZT3) on 5 consecutive days (MAP1 0–4). Then, following 2 days with no treatment, MAP was injected for another 5 consecutive days (MAP2 0–4). Injection-anticipatory activity was defined as activity occurring during the two hours prior to injection (ZT1-3). Injection-induced activity was defined as activity occurring during the 6 h following the injection. MAP was given to male and female *Per1-luc* mice (C57 BL/6J background). The effect of MAP on behavioral activity rhythms showed no significant differences between male and female mice [4].

2.3. Locomotor Activity Rhythm

Per1-luc mice were housed in transparent plastic cages. A chronobiology kit [12,13] was used for measuring their locomotor activity rhythms. Behavior records in 5-minute bins were used for this analysis. Food and water were provided ad libitum. The plastic cages and method of determining locomotor activity have been described previously [12,13].

2.4. Measurement of Abdominal Temperature

Intraperitoneal temperature was continuously recorded with a thermometer device (Thermochron Type-G, #1921G, KN Laboratories, Inc., Osaka, Japan) containing a thermometer, microchip, and battery. The device monitored temperature at 30 min intervals. The temperature resolution was 0.5 °C. Implantation of the device into the abdominal cavity was performed under isoflurane anesthesia. After the experiment was over, the device was taken out of the abdominal cavity, and the data were read using the provided software "ThermoManager (ver. 2.27)".

2.5. Detection of Per1 Expression Rhythms in the Skin of Freely Moving Mice

To record *Per1* expression in the skin, mice were anesthetized with isoflurane (Zoetis, Tokyo, Japan). A tissue contact optical sensor (TCS) [15] was implanted under the skin of a *Per1-luc* mouse and fixed so that the photocathode was in close contact with the subcutaneous skin tissue, as previously reported [13]. After surgery, the mouse was housed in LD and allowed to establish stable daily activity rhythms. The lights-off time (20:00) was designated as ZT12. Optical fibers were then connected to the portable optical detection (POD) device [15,16]. The data from the POD were saved on an SD card and analyzed as previously reported [16].

The bioluminescence recording began in constant darkness (DD). The locomotor activity onset time was designated as circadian time (CT)12 under DD conditions. D-luciferin (20 mg/mL) (Fujifilm Wako, Osaka, Japan) was injected intraperitoneally into *Per1-luc* mice at a controlled flow rate (10 μL/h) as described in our previous report [17], with some modifications, in order to achieve sufficient photon counts. Photons emitted by the target areas of freely moving mice were integrated over 10-second intervals and averaged for 30 min during long recordings. Our method of determining the peak time of *Per1* expression rhythm was described previously in [15].

2.6. Detection of MAP-Induced Per1 Expression in the Scalp Hairs Using Micro-PMT

MAP (0.1 *w*/*v*%, 0.5 mL) was intraperitoneally injected into adult *Per1-luc* mice at ZT3 (AM 11:00). Food and water were provided ad libitum. Before MAP injection (day 0), and after 1 day (day 1), 2 days (day 2), 3 days (day 3), 4 days (day 4), and 7 days (day 7), mouse scalp hairs were collected. Mouse scalp hairs (over a dozen hairs) were isolated by forceps at ZT3 and incubated in 100 μL of PicaGene cell culture reagent (Toyo B-net Co., Ltd., Tokyo, Japan) over several hours. After centrifugal spinning, the supernatant (25 μL) was mixed with 50 μL of PicaGene (Toyo B-net Co., Ltd.). The bioluminescence of the mixed solution (25 μL) was measured every 10 s using a micro-PMT system as per our previous methods [13]. The supply voltage was set to 800 V in order to obtain bioluminescence. The value of bioluminescence was calculated using the data measured from 120 s to 300 s, to eliminate instability in the initial measurement of the micro-PMT. After the measurement, the number of scalp hairs was counted. The value of bioluminescence was calculated per hair.

2.7. Detection of MAP-Induced Per1 Expression in a Whisker Hair Using Micro-PMT

2.7.1. Solution Method

Similar to our experiment examining scalp hair, we pulled a whisker hair out for the experiments to determine MAP-induced *Per1* expression in a single hair. The sample was incubated in 25 μL of PicaGene cell culture reagent over several hours. After centrifugal spinning, the supernatant (25 μL) was mixed with 50 μL of PicaGene. The bioluminescence of the mixed solution (25 μL) was measured every 10 s using a micro-PMT system as per our previous methods [13]. The supply voltage was set to 1100 V to order to obtain sufficient bioluminescence. The value of bioluminescence was calculated using the data measured from 120 s to 300 s, to eliminate instability in the initial measurement of the micro-PMT.

2.7.2. Direct Methods

A whisker hair was pulled out with the same solution method described above. Within 10 min after sampling, the sample was placed directly on the photocathode of the micro-PMT, which was prefilled with PicaGene solution (5 µL). The bioluminescence was measured every 10 s for 300 s within 10 min after sampling. The supply voltage was set to 1100 V in order to obtain sufficient bioluminescence. The value of bioluminescence was calculated using the data measured from 120 s to 300 s, to eliminate instability in the initial measurement of the micro-PMT. Two methods were tested: measuring the amount of luminescence from a hair cut in half by micro-PMT, and measuring without cutting.

2.8. LUC Expression in Scalp and Whisker Hairs by Immunohistological Analysis

The expression of *Per1* in scalp and whisker hairs was immunohistochemically identified in *Per1-luc* mice using an anti-luciferase polyclonal antibody (Promega, Madison, WI, USA). Scalp hairs and a single whisker hair were pulled out at ZT3 and stored in cold 4% paraformaldehyde in 0.1 M phosphate buffer (pH 7.4). Fixed samples were kept in phosphate buffer before the immunostaining experiment. The method of determining LUC expression has been described previously [13,18].

2.9. Statistics

The effects of MAP treatments on *Per1* expression and the period of locomotor activity rhythm were examined using either one-way ANOVA followed by Dunnett's test or two-way ANOVA followed by Bonferroni's multiple comparisons test.

3. Results

3.1. Effect of Daily MAP Injection on Locomotor Activity and Body Temperature Rhythm

Figure 1A,B show that locomotor activity was repeated according to the scheduled injection of MAP (0.1 *w*/*v*%, 0.5 mL i.p.). *Per1-luc* mice were injected with MAP at ZT3 for 5 days (MAP1 0–4) and withdrawn for 2 days (WD 1–2) following the 5 days of injections (MAP2 0–4). MAP injection resulted in an increase in daily activity occurring from ZT5-9, 2–6 h after the injections. Before MAP injection, the *Per1-luc* mice were active at night and resting during the day. Immediately after MAP administration, the mice showed the reverse, resting at night and being active during the day (Figure 1C). This injection-induced activity disappeared immediately after withdrawing MAP (WD1 1–2). With these reversed conditions, we examined whether physiological functions such as glucose content, body weight, and water intake were affected. Supplementary Figure S1 shows that these functions had no change if daily MAP injections continued for 7 days.

Anticipatory activity was observed after MAP injection on withdrawal days (WD1 1–2 and WD2 1–5) (red square areas in Figure 1A). Figure 1D shows the locomotor activity before MAP injection (pre1–4 days), during MAP injection, and on withdrawal days 1 and 2. Locomotor activity significantly increased at day 3 and day 4 after MAP injection. Withdrawal days 1 and 2 also showed a significant increase in locomotor activity. These results suggest that anticipatory activity is formed within 3 days after MAP injections. During this duration, the saline-treated group had no increase in locomotor activity (mean % of daily activity for the whole duration: 0.83 ± 0.35). Figure 1E shows that anticipatory activity continued for at least 9 days after the withdrawal of MAP.

Next, we examined the effect of MAP on body temperature rhythm (Figure 1F–H). The peak of pre-feeding activity rhythm by restricted daily feeding (RF) in the light phase was previously determined to develop body temperature rhythm [19]. Before MAP injection, the peak time of body temperature rhythm was 5:08 ± 0.38 h (lights on 8:00, lights off 20:00 in the LD cycle). On the first and second days of MAP injections, there were two peaks of body temperature. Peak body temperature showed a stable rhythm on the 3rd day of MAP injection. The mean peak time (MAP1 2–4) was 19:00 ± 0.56 h at MAP1 2–4. Withdrawal of MAP (WD 1–1, 1–2) immediately abolished the peak of body temperature rhythm, and two peaks appeared. When MAP was re-administered (MAP2 0–4), the peak

body temperature rhythm immediately shifted to the end of the light phase in the LD cycle on the first day of MAP injection. It showed a stable rhythm during MAP2 0–4. The mean peak time was 18:27 ± 1.46 h. These peaks disappeared again after the withdrawal of MAP (WD 2–1, 2–2). This phenomenon was thought to be due to the reverse tolerance brought about by daily MAP administration [20]. After 3 days of withdrawal, the peak body temperature rhythms were immediately set to the dark phase in the LD cycle (peak time was 3:20 ± 0.12 h) compared to that of MAP1 0–4.

We also analyzed the amplitude of body temperature rhythm (Figure 1H). The decrease in amplitude was observed at the MAP (1–0, 1–1), WD (1–1, 1–2), and WD (2–1, 2–2). After the decrease in the amplitude of body temperature rhythm at the time when body temperature rhythm had two peaks, the body temperature showed a stable rhythm. The MAP-injection-induced shift in body temperature rhythm did not continue in the same manner as the behavior activity rhythm.

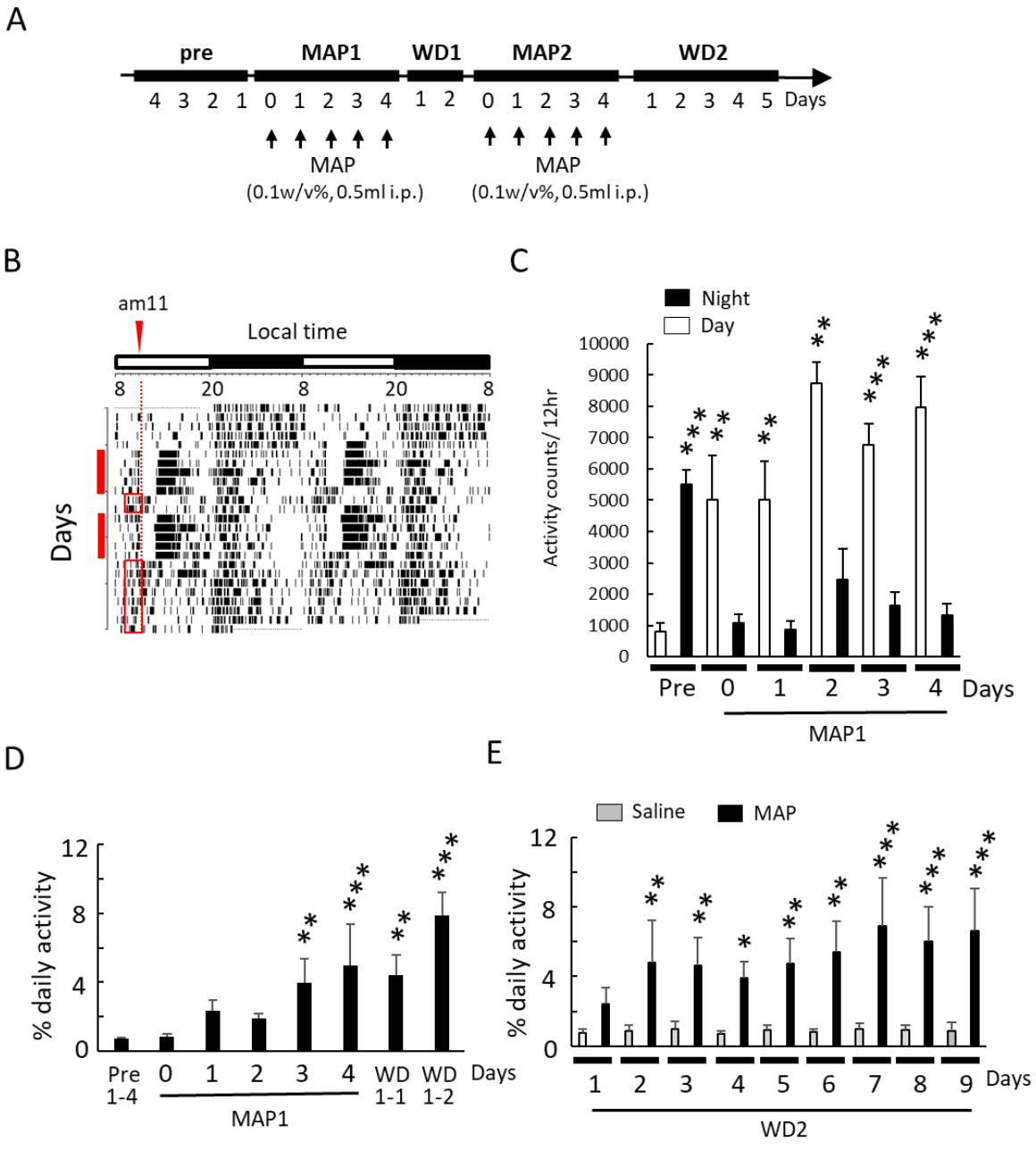
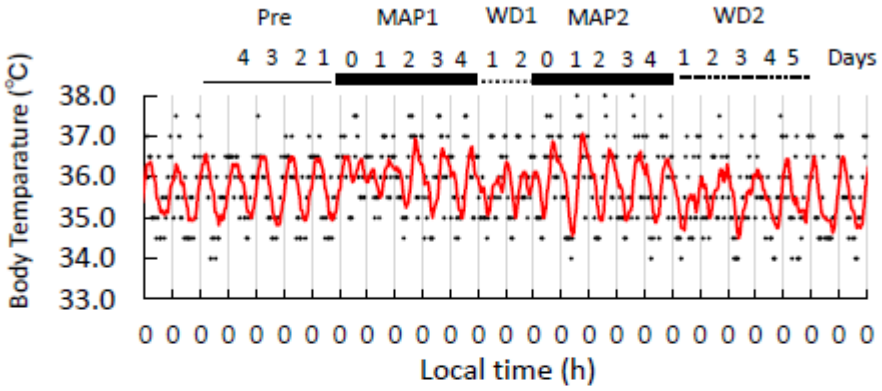


Figure 1. *Cont.*

F



G

Days	Peak time (h)
Pre	5:08 ± 0.38
MAP1-0	2peak
MAP1-1	2peak
MAP1-(2-4)	19:05 ± 0.56
WD 1-1	2peak
WD 1-2	2peak
MAP2-(0-4)	18:27 ± 1.46
WD 2-1	2peak
WD 2-2	2peak
WD 2 -(3-5)	3:20 ± 0:12

H

Days	Amplitude (°C)
Pre	1.32 ± 0.21
MAP1-0	0.75 ± 0.27
MAP1-1	0.99 ± 0.36
MAP1-(2-4)	1.60 ± 0.10
WD 1-1	0.77 ± 0.46
WD 1-2	0.78 ± 0.54
MAP2-(0-4)	1.66 ± 0.25
WD 2-1	0.87 ± 0.58
WD 2-2	1.23 ± 0.55
WD 2-(3-5)	1.57 ± 0.18

Figure 1. Effect of daily MAP injections on locomotor activity and body temperature rhythm. (**A**) Schematic figure of MAP intraperitoneal (i.p.) injection schedule at ZT3. (**B**) Anticipatory locomotor activity. Representative double-plotted actographs of the *Per1-luc* mice subjected to MAP are shown. The red line in the vertical bar indicates the time of injection (MAP1 0–4, MAP2 0–4) at ZT3 (AM11:00). Levels of behavioral activity are indicated by black columns. The figure depicts locomotor activity beginning prior to the start of injections. MAP injection resulted in an acute increase in locomotor activity, with anticipatory activity prior to the scheduled injection, and an increase in activity following injection. Red boxes indicate anticipatory activity without MAP injections. The horizontal bar at the top of each panel represents the light cycle—the light phase with open bars and the dark phase with filled bars. (**C**) The amount of locomotor activity during the day and night. After MAP injection, the amount of locomotor activity during the day and night was reversed. "Pre" indicates before MAP injection. Day 0 indicates the start day of MAP injection. Open and closed columns show day (08:00–20:00) and night (20:00–08:00), respectively. Statistical significance was determined by one-way ANOVA followed by Dunnett's test (n = 4 animals) (** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$ vs. Pre Day). (**D**) Amount of locomotor activity between 9:00 and 11:00 at Pre, MAP1 0–4, WD1–1, and WD1–2. MAP was withdrawn at WD1–1 and WD1–2 after daily MAP injection at ZT3 (11:00) for 5 days (MAP1 0–4). Vertical values show the anticipatory activity (%) {[(activity counts from 2 h)/(activity counts for a full day)] × 100} on the day before or after MAP. Statistical significance was determined by one-way ANOVA followed by Dunnett's test (n = 4 animals) (** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$ vs. Pre 1–4). (**E**) Anticipatory activity persisted after withdrawal. MAP was withdrawn after daily MAP injection at ZT3 (11:00) (MAP2 0–4). Day 1 indicates the day after withdrawing MAP. Statistical significance was determined by two-way ANOVA followed by Bonferroni's multiple comparisons test (n = 4 animals) (* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$ vs. saline). (**F**) Body temperature rhythm of the

same mouse in Figure 1A. Body temperature of the *Per1-luc* mice subjected to MAP is shown. The body temperature is plotted at 30 min intervals. Red lines indicate fitted curves for each plot. The bar in the vertical axis indicates the time of injection (MAP1 0–4, MAP2 0–4) at ZT3 (11:00). (**G**) Peak time of body temperature rhythm (n = 3 animals). The peak time at MAP1–0, MAP1–1, WD1–1, WD1–2, WD2–1, and WD2–2 was not clear. These peak times indicate two peaks. (**H**) Amplitude of body temperature rhythm (n = 3 animals).

3.2. MAP-Induced Per1 Gene Expression in the Scalp Hairs

We previously reported that elevated *Per1* expression caused by streptozotocin (STZ) plays an important role in the aggravation of diabetes, and that *Per1* expression in the back skin hairs responded to blood glucose changes in very early stages of diabetes [12,13]. These results suggest that the experimental procedure using hairs is a simple and easy measure to detect diseases. Therefore, using the measurement of *Per1* expression in hairs, we attempted to examine whether *Per1* expression changes associated with MAP-induced anticipatory activity were detected.

We first confirmed the *Per1* expression rhythm in the skin (including the hairs) on the first day (DD day1) after transferring mice from LD to DD (Figure 2A), in order to determine the sampling time of hairs of *Per1-luc* mice. We did this because, under LD conditions, LD light affects the measurement of *Per1* gene expression in the skin, so it is necessary to measure the *Per1* expression rhythm under DD conditions. In Figure 2A, the *Per1* expression rhythm in the back skin is shown at DD day 1 and DD day 2. The peak time of *Per1* expression at DD day 1 was CT11.4 $\pm$ 2.01 h (n = 4 animals). It is reported that the PER2 protein is expressed in most cell types, including epidermal keratinocytes, dermal fibroblasts, and hair follicles of the skin. In these cells, the PER2 protein is expressed with a peak at CT16, 4–8 h after expression of its mRNA [21]. Then, we estimated *Per1* expression in the scalp hairs and a whisker hair during the time period of low *Per1* expression; it was easy to detect the effect of MAP on *Per1* expression.

A schematic figure of scalp hair sampling at ZT3 is shown in Figure 2B. Mouse scalp hairs were collected before MAP injection (day 0) and then 1 day (day 1), 2 days (day 2), 3 days (day 3), 4 days (day 4), and 7 days (day 7) after injection. As previously reported, the levels of *Per1* expression in the back skin, liver, olfactory bulb, cortex, and ear at ZT3 were low [12,13,17]. After we determined that *Per1* was strongly expressed in scalp hair follicles after MAP injection (Figure 2C), changes in *Per1* expression in the scalp hairs after MAP injection were examined. Elevated *Per1* expression was measured from the bioluminescence of the scalp hair samples (Figure 2D), as previously reported [12,13]. Elevated *Per1* expression in the scalp hair samples was detected at days 4 and 7. After a two-day MAP withdrawal period, significant *Per1* expression was detected on day 7 and day 4. *Per1* expression on day 3 tended to be increased, despite the present studies showing no significant value. These results suggest that *Per1* expression rhythm in scalp hairs was reset at least four days after daily MAP injection.

3.3. MAP-Induced Per1 Gene Expression in a Whisker Hair

Similarly, we attempted to detect *Per1* expression in a single whisker hair, with the same schedule as shown in Figure 2B. We confirmed that *Per1* was strongly expressed in the whisker hair follicle (Figure 3A). To quantify the elevation of *Per1* expression caused by MAP injection, we prepared a sample solution of cell extracts from a randomly collected whisker hair to react with a PicaGene (Toyo B-net Co., Ltd.) solution containing D-luciferin as a substrate. The *Per1* expression level was quantified by measuring the amount of bioluminescence by placing the sample solution on the photocathode [13] of the micro-PMT (Figure 3B). We detected a significant increase in *Per1* expression in the whisker hair at day 3, day 4, and day 7 after MAP injection (Figure 3C). After a two-day MAP withdrawal period, significant *Per1* expression was detected on day 7, as well as on day 3 and day 4 (Figure 3C).

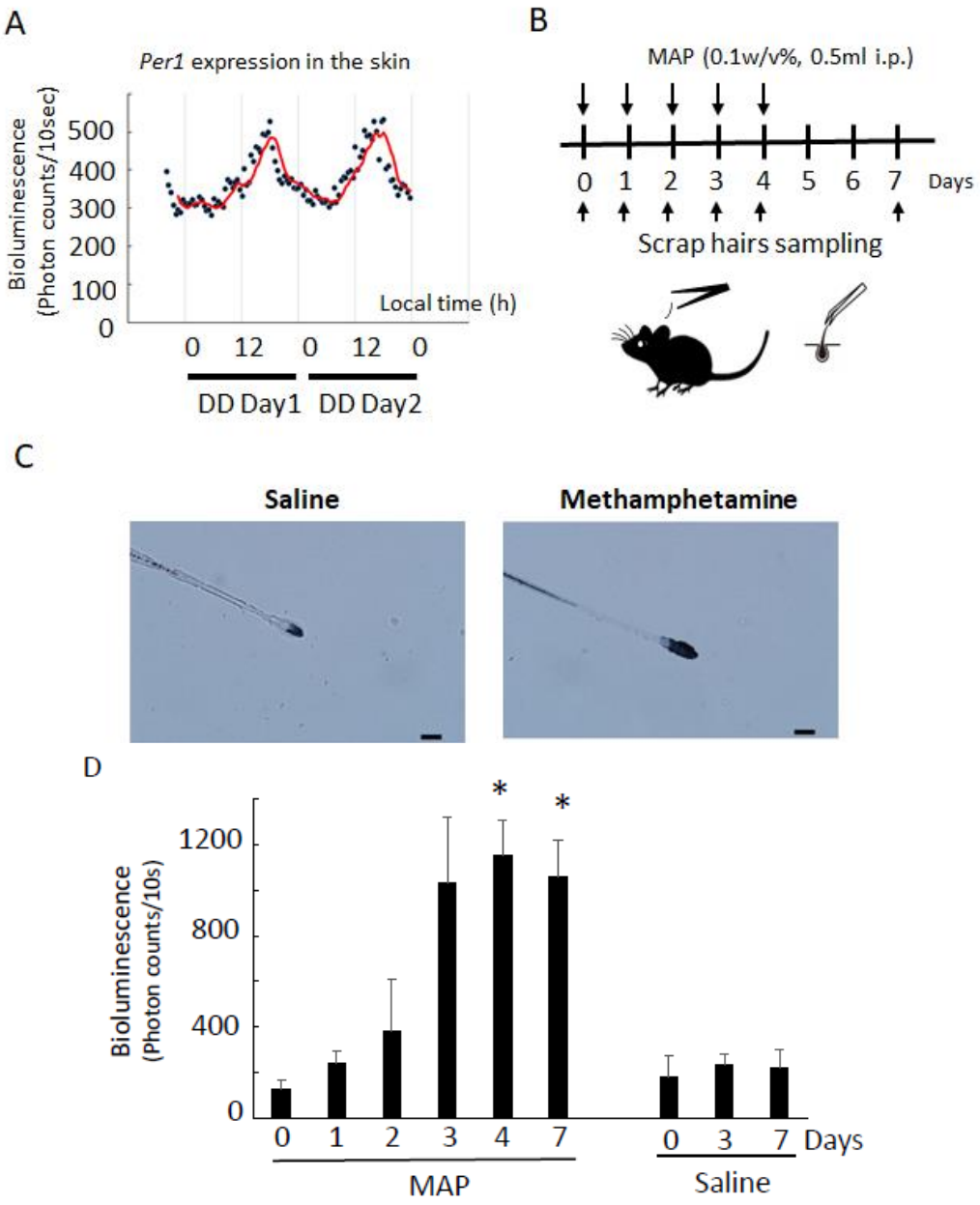


Figure 2. MAP-induced *Per1* gene expression in scalp hairs. (**A**) *Per1* bioluminescence (photon counts/10 s) of the skin in a freely moving *Per1-luc* mouse with a TCS [15]. The TCS was implanted under the skin of the *Per1-luc* mouse. Bioluminescence was measured from DD day 1. Photons emitted by the skin cells of freely moving mice were integrated over 10 s intervals and averaged for 30 min. The red line is the trend line. (**B**) Schematic figure of scalp hair sampling and MAP injections at ZT3. Day 0 indicates the start day of MAP injections. Sampling of the scalp hairs was performed just before MAP injections. Mouse scalp hairs were isolated by forceps and incubated in PicaGene cell culture reagent until the analysis using a micro-PMT system. (**C**) Expression of *Per1* in scalp hair. The hairs were sampled at ZT3 on day 7. The photos indicate the immunostaining with LUC polyclonal antibody. The scale bar is 200 μm. (**D**) MAP-induced *Per1* gene expression in scalp hair after daily injection of MAP. Bioluminescence was measured every 10 s using a micro-PMT system [13]. The supply voltage was set to 800 V in order to obtain the bioluminescence. Statistical significance was determined by one-way ANOVA followed by Dunnett's test (n = 4 animals) (* $p < 0.05$ vs. day 0). The day 0 sample was collected just before MAP injection.

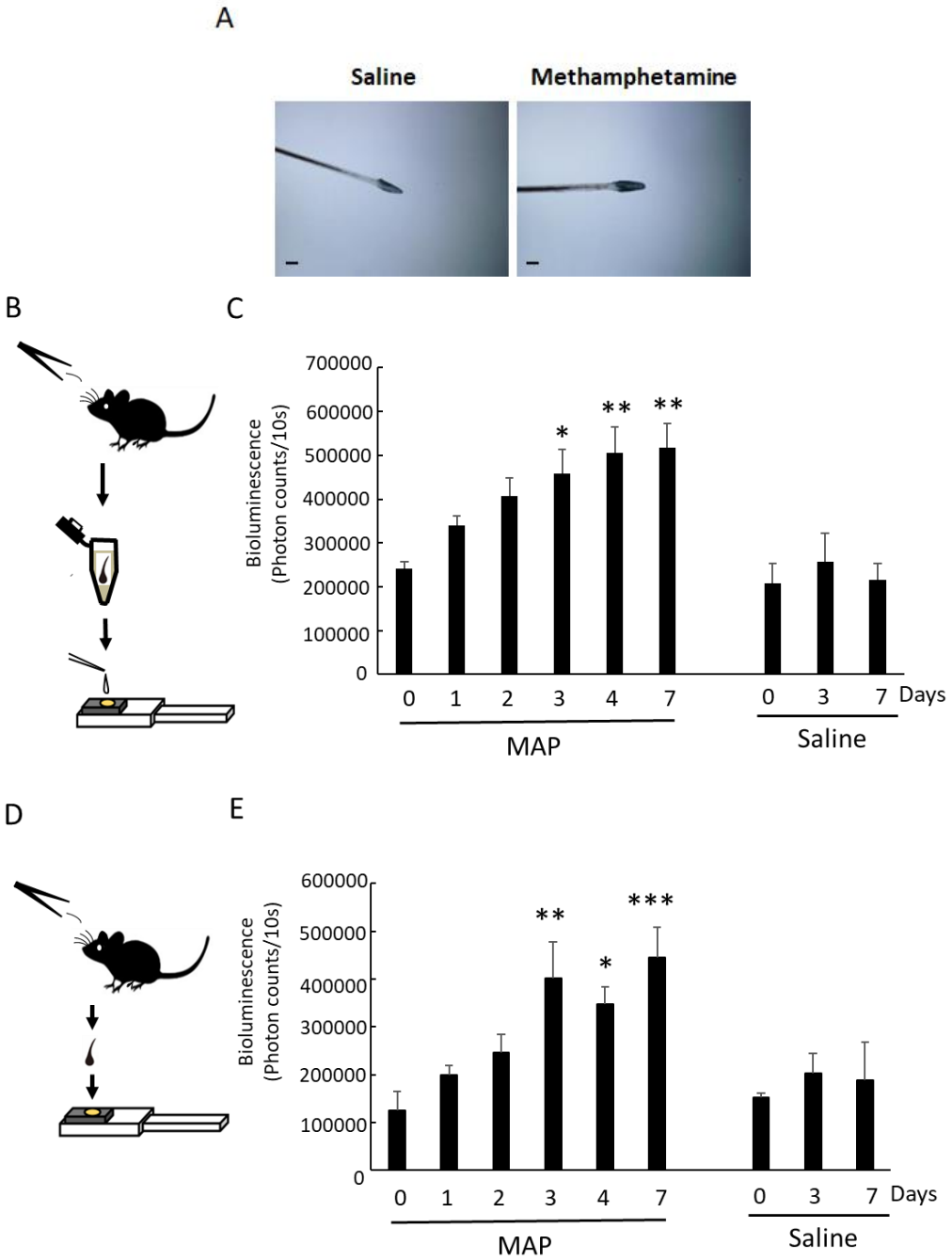


Figure 3. MAP-induced *Per1* gene expression in whisker hairs. (**A**) Expression of *Per1* in whisker hairs. The hairs were sampled at ZT3 on day 7. The photos indicate the immunostaining with LUC polyclonal antibody. The scale bar is 200 μm. (**B**) Schematic figure of the solution method for measuring *Per1* expression in whisker hairs. (**C**) MAP-induced *Per1* gene expression in whisker hairs, determined by the solution method. Bioluminescence was measured every 10 s using a micro-PMT system [13]. The supply voltage was set to 1100 V in order to obtain sufficient bioluminescence. Statistical significance was determined by one-way ANOVA followed by Dunnett's test (n = 4 animals) (* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$ vs. day 0). The day 0 sample was collected just before MAP injection. (**D**) Schematic figure of the direct method for measuring *Per1* expression in whisker hairs. (**E**) MAP-induced *Per1* gene expression in whisker hairs, determined by the direct method. Statistical significance was determined by one-way ANOVA followed by Dunnett's test (n = 4 animals) (* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$ vs. day 0). The day 0 sample was collected just before MAP injection.

Next, we tried to determine the elevation of *Per1* expression more simply than the above method using a "sample solution". We collected a whisker hair randomly and placed it directly on the photocathode of the micro-PMT, which was filled with PicaGene solution (Figure 3D). Like the cell solution method, we detected a significant increase in *Per1* expression in the whisker hair at day 3, day 4, and day 7 after MAP injection (Figure 3E). We named this method the "direct method". The direct method was very simple because it involved placing the hairs on the micro-PMT. Interestingly, we could detect *Per1* expression in whisker hair cells by simply mixing a whisker hair with PicaGene solution. Five minutes was enough to analyze the *Per1* expression in whisker hair cells. The measurement of bioluminescence by the luciferin–luciferase reaction to detect *Per1* expression in whisker hair cells requires that the luciferin in the PicaGene solution reacts with the luciferase within the whisker hair. Therefore, we compared whether the root area of a whisker hair that was cut in half showed higher bioluminescence than that of an uncut hair. Supplementary Figure S2 shows that the direct method (uncut sample) was more sensitive to measure *Per1* expression than the half-cut sample whisker hair (Bioluminescence values, uncut with no PicaGene: 142.5 ± 95.2; uncut with PicaGene: 193,180.8 ± 90,545.5; cut with PicaGene: 67,316.1 ± 46,957.8).

4. Discussion

We succeeded in detecting elevated *Per1* expression in a single whisker hair as a result of daily MAP injections. As a direct effect of MAP, an increase in activity was observed from the first day of MAP administration. This direct effect occurred between 2 and 6 h after MAP administration. The increase in activity disappeared 6 h after MAP administration (Figure 1B). This increase in activity occurred only during the period of MAP administration and did not occur without MAP administration. It has been reported that the serum half-life of MAP after oral administration is about 8.5 h [22]. We measured *Per1* expression 24 h after MAP administration in this study. The luciferase reaction was used to measure *Per1* expression, because the half-life of LUC is shorter (2–3 h) than that of MAP [23,24]. Therefore, 24 h after MAP administration, the direct effect of MAP is thought to have disappeared. *Per1* expression near the root of the hair increased significantly 3 days after MAP administration, but not during day 1 and day 2 after MAP administration. This increase was measured for up to 7 days without MAP administration. Based on these results, this increase cannot be attributed to a direct effect of MAP. Considering the elimination of the direct effect of MAP on *Per1* expression after MAP administration, the present results suggest that elevated *Per1* expression in hairs can be used as a marker of anticipatory behavior formation. These results also show an increase in sensitization (Figures 1C–H and 3C,E) to MAP after MAP injections [20]. Daily MAP injections at a fixed time resulted in an anticipatory activity rhythm in *Per1-luc* mice with a C57BL/6 background that persisted on withdrawal days, as previously reported [8,9]. Body temperature rhythms shifted to a new phase within 3 days after daily MAP injections, but these rhythms had no continuity. Circadian changes in temperature comparable to those seen in core body temperature rhythms (36 °C to 38.5 °C in mice) can entrain and enhance the amplitude of circadian rhythms in peripheral tissues [25]. In the present study, *Per1* expression in scalp and whisker hairs maintained high levels on withdrawal days. This elevated *Per1* expression indicates that it is not a result induced by the change in body temperature rhythm. It has been reported that daily oscillation of *Period* genes outside the SCN (striatum, pituitary, salivary gland, and liver) is closely associated with the regulation of SCN-independent rhythms similar to the MAP-induced anticipatory behavior rhythm [8,9]. The present study also provides the first demonstration that hairs are affected by repeated MAP injections.

The skin is a large and complex organ composed of multiple cell types, organized into layers, featuring thousands of mini-organ structures such as hair follicles and sweat glands. Circadian oscillations were found to be present in several principal skin cell types, including epidermal and hair follicle keratinocytes, dermal fibroblasts, and melanocytes [26–30]. At least 1400 genes involved in multiple functions show circadian expression changes in

mouse skin [31]. MAP-induced anticipatory behavior is associated with the induction and a phase advance in the expression rhythm of *Per1* [8]. CCD camera and TCS studies show that *Per1* expression in the skin of freely moving mice has a peak around the time of activity onset [13,17]. Therefore, we determined the time (ZT3) of MAP injection by considering *Per1* expression rhythms in the skin. At ZT3—the time of MAP administration—*Per1* expression was found to be low (Figure 2A). As a result, it was easy to detect the changes in *Per1* expression induced by MAP injections. In other papers [8,9], MAP was injected at ZT7, and anticipatory behavior was induced by MAP injection, as in our results. Using this time point (ZT3), we observed elevated *Per1* expression in scalp and whisker hairs as a result of the MAP injections. Significant *Per1* expression in scalp hairs was induced after MAP injection at day 4. In addition, the *Per1* expression was maintained at day 7 when MAP was withdrawn. Similarly, we showed that significant *Per1* expression in a single whisker hair was induced after MAP injection at days 3 and 4 and continued until day 7, when MAP was withdrawn. Considering the reports that the MAP-induced anticipatory behavior is associated with the induction and a phase advance in the expression rhythm of *Per1* [8], the present results suggest that the MAP-induced anticipatory system forms within 3 days of MAP administration. There was a difference in the *Per1* expression induced by MAP between scalp hairs and whisker hairs. Whisker hairs are longer, stiffer, and larger in diameter than scalp hairs. In addition, whisker hairs are innervated to the somatosensory cortex, where a column of neurons called "barrels" is widely used as a model system to study cortex development, neuronal plasticity, and sensory motor integration [32]. Whisker hairs may play some role in the MAP-induced anticipatory behavior formation mechanism through the cortical barrel. We have reported that STZ treatment induces different *Per1* expression in scalp and whisker hairs. Further studies are needed to clarify the difference between scalp and whisker hairs. Finally, we developed a system for analyzing *Per1* expression by direct sampling. The direct method is very simple, and its sensitivity was enough to detect the *Per1* expression in a single whisker hair. This method can likely be applied to various other biological studies.

At present, the mechanism underlying the anticipatory expression of *Per1* in hairs in response to daily injection with MAP remains unknown. The circadian clock activity in the skin and hair is coordinated by the SCN, presumably through neuronal and hormonal mediators, under normal conditions. In MAP-induced conditions, an unknown region of the brain regulates the circadian clock activity of hairs. This is thought to be under the control of the SCN [33], and it might be the same regulating activity outside the SCN (striatum, pituitary, salivary gland, liver, or hair) and anticipating behavior to activate the dopamine D1 receptor or NMDA receptors [9,11]. Further whole-body studies of the target area formed by activating MAP-induced anticipatory activity need to be conducted.

Several results have been reported for applying the method of analyzing clock gene expression in hair tissue to humans. PCR or ex vivo culture of hair tissues might be available [34,35]. Applying the present method of hair tissue to healthy and MAP-treated subjects may lead to an understanding of the relationship between the impact of drug abuse and the disturbance of circadian rhythms.

Supplementary Materials: The following supporting information can be downloaded at: https://www.mdpi.com/article/10.3390/cells12040654/s1, Figure S1: Effects of MAP on blood glucose, body weight, and water intake, Figure S2: *Per1* expression in a single whisker hair using direct method.

Author Contributions: K.H. and T.H. conceived and designed the experiments; R.S., M.K., Y.Y., S.F. and M.N. performed the experiments; T.Y., N.I., K.S., K.H. and T.H. analyzed the data; S.H., M.O., K.H. and T.H. contributed reagents, materials, and analysis tools; K.S., K.H. and T.H. wrote the manuscript; T.H. formulated the overarching research goals and aims. All authors have read and agreed to the published version of the manuscript.

Funding: This research was partially supported by JSPS KAKENHI (Grant Number 20K06745), KAKENHI (Grant Number 18H04724"Resonance Bio"), a research fund from Tochigi Industrial

Promotion Center "The Grant-in-Aid for World-Class Technological Research and Development", and a research fund from the Naito Foundation.

Institutional Review Board Statement: The study was conducted in accordance with the Guidelines for the Care and Use of Laboratory Animals in the International University of Health and Welfare and approved by the Committee for Animal Experimentation (permission #18014) and Recombinant DNA experiments (permission D17021) of the International University of Health and Welfare.

Data Availability Statement: Data are contained within the article.

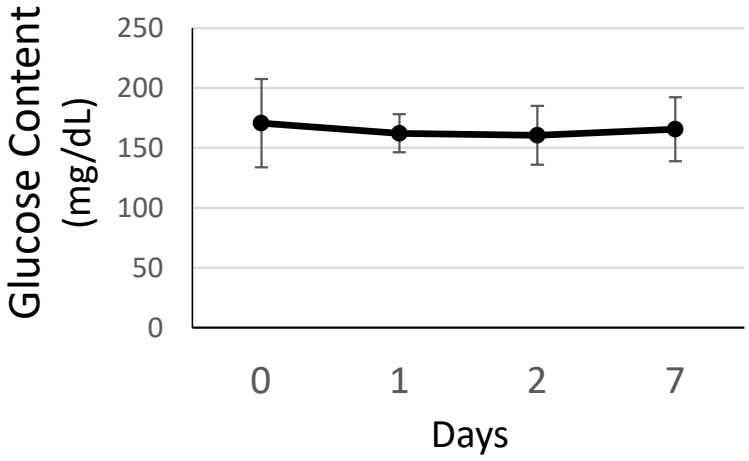
Acknowledgments: We are grateful to K. Honma and S. Honma for providing us with the *Per1-luc* transgenic mice. We thank Ruya Tazebay for the comments on earlier drafts of this manuscript.

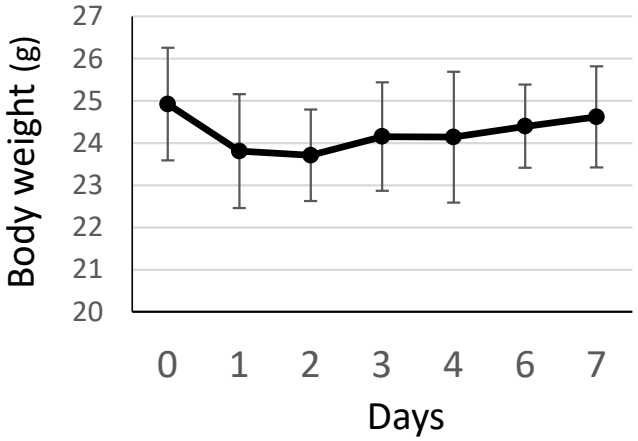
Conflicts of Interest: The authors declare no conflict of interest. The funders had no role in the design of the study; in the collection, analyses, or interpretation of data; in the writing of the manuscript; or in the decision to publish the results.

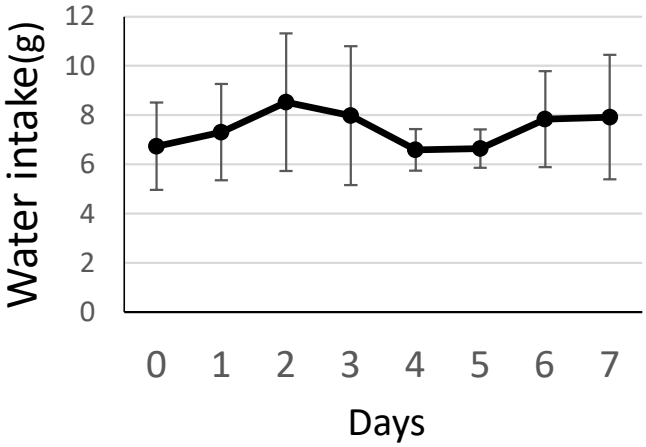
References

1. Moore, R.Y.; Eichler, V.B. Loss of a circadian adrenal corticosterone rhythm following suprachiasmatic lesions in the rat. *Brain Res.* **1972**, *42*, 201–206. [CrossRef]
2. Stephan, F.K.; Zucker, I. Circadian rhythms in drinking behavior and locomotor activity of rats are eliminated by hypothalamic lesions. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* **1972**, *69*, 1583–1586. [CrossRef]
3. Honma, K.; Honma, S.; Hiroshige, T. Disorganization of the rat activity rhythm by chronic treatment with methamphetamine. *Physiol. Behav.* **1986**, *38*, 687–695. [CrossRef]
4. Tataroglu, O.; Davidson, A.J.; Benvenuto, L.J.; Menaker, M. The methamphetamine-sensitive circadian oscillator (MASCO) in mice. *J. Biol. Rhythms* **2006**, *21*, 185–194. [CrossRef]
5. Honma, K.; Honma, S. The SCN-independent clocks, methamphetamine and food restriction. *Eur. J. Neurosci.* **2009**, *30*, 1707–1717. [CrossRef]
6. Honma, S.; Honma, K.; Hiroshige, T. Methamphetamine effects on rat circadian clock depend on actograph. *Physiol. Behav.* **1991**, *49*, 787–795. [CrossRef]
7. Shibata, S.; Minamoto, Y.; Ono, M.; Watanabe, S. Aging impairs methamphetamine-induced free-running and anticipatory locomotor activity rhythms in rats. *Neurosci. Lett.* **1994**, *172*, 107–110. [CrossRef]
8. Iijima, M.; Nikaido, T.; Akiyama, M.; Moriya, T.; Shibata, S. Methamphetamine-induced, suprachiasmatic nucleus-independent circadian rhythms of activity and *mPer* gene expression in the striatum of the mouse. *Eur. J. Neurosci.* **2002**, *6*, 921–929. [CrossRef]
9. Mohawk, J.A.; Pezuk, P.; Menaker, M. Methamphetamine and dopamine receptor D1 regulate entrainment of murine circadian oscillators. *PLoS ONE* **2013**, *8*, e62463. [CrossRef]
10. Honma, S.; Honma, K. Phase-dependent phase shift of methamphetamine-induced circadian rhythm by haloperidol in SCN-lesioned rats. *Brain Res.* **1995**, *674*, 283–290. [CrossRef]
11. Shibata, S.; Ono, M.; Fukuhara, N.; Watanabe, S. Involvement of dopamine, N-methyl-D-aspartate and sigma receptor mechanisms in methamphetamine-induced anticipatory activity rhythm in rats. *J. Pharmacol. Exp. Ther.* **1995**, *274*, 688–694.
12. Kanou, H.; Nagasawa, K.; Ishii, Y.; Chishima, A.; Hayashi, J.; Haga, S.; Sutherland, K.; Ishikawa, M.; Ozaki, M.; Shirato, H.; et al. *Period1* gene expression in the olfactory bulb and liver of freely moving streptozotocin-treated diabetic mouse. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **2021**, *560*, 14–20. [CrossRef]
13. Hamada, K.; Ishii, Y.; Yoshida, Y.; Nakaya, M.; Sato, Y.; Kanai, M.; Kikuchi, Y.; Yamaguchi, T.; Iijima, N.; Sutherland, K.; et al. The analysis of *Period1* gene expression in vivo and in vitro using a micro PMT system. *Biophys. Res. Commun.* **2021**, *577*, 64–70. [CrossRef]
14. Hida, A.; Koike, N.; Hirose, M.; Hattori, M.; Sakaki, Y.; Tei, H. The human and mouse *Period1* genes: Five well-conserved E-boxes additively contribute to the enhancement of *mPer1* transcription. *Genomics* **2000**, *65*, 224–233. [CrossRef]
15. Hamada, K.; Oota, A.; Ito, R.; Kasahara, S.; Nakajima, K.; Kikuchi, Y.; Sutherland, K.; Ishikawa, M.; Shirato, H.; Ozaki, M.; et al. Double recording system of *Period1* gene expression rhythm in the olfactory bulb and liver in freely moving mouse. *Biophys. Res. Commun.* **2020**, *529*, 898–903. [CrossRef]
16. Ito, R.; Hamada, K.; Kasahara, S.; Kikuchi, Y.; Nakajima, K.; Sutherland, K.; Shirato, H.; Ozaki, M.; Ishikawa, M.; Hamada, T. Mouse *period1* gene expression recording from olfactory bulb under free moving conditions with a portable optic fiber device. *Luminescence* **2020**, *35*, 1248–1253. [CrossRef]
17. Hamada, T.; Sutherland, K.; Ishikawa, M.; Miyamoto, N.; Honma, S.; Shirato, H.; Honma, K.-I. In vivo imaging of clock gene expression in multiple tissues of freely moving mice. *Nat. Commun.* **2016**, *7*, 11705. [CrossRef]
18. Hamada, T.; Honma, S.; Honma, K. Light responsiveness of clock genes, *Per1* and *Per2*, in the olfactory bulb of mice. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **2011**, *409*, 727–731. [CrossRef]
19. Mistlberger, R.E. Circadian food-anticipatory activity: Formal models and physiological mechanisms. *Neurosci. Biobehav. Rev.* **1994**, *18*, 171–195. [CrossRef]

20. Kuribara, H.; Tadokoro, S. Reverse tolerance to ambulation-increasing effects of methamphetamine and morphine in 6 mouse strains. *Jpn. J. Pharmacol.* **1989**, *49*, 197–203. [CrossRef]
21. Tanioka, M.; Yamada, H.; Do, M.; Bando, H.; Yamaguchi, Y.; Nishigori, C.; Okamur, H. Molecular clocks in mouse skin. *J. Investig. Dermatol.* **2009**, *129*, 1225–1231. [CrossRef]
22. Cook, C.E.; Jeffcoat, A.R.; Sadler, B.M.; Hill, J.M.; Voyksner, R.D.; Pugh, D.E.; White, W.R.; Perez-Reyes, M. Pharmacokinetics of oral methamphetamine and effects of repeated daily dosing in humans. *Drug Metab. Dispos.* **1992**, *20*, 856–862.
23. Thompson, J.F.; Hayes, L.S.; Lloyd, D.B. Modulation of firefly luciferase stability and impact on studies of gene regulation. *Gene* **1991**, *103*, 171–177. [CrossRef]
24. Ignowski, J.M.; Schaffer, D.V. Kinetic Analysis and Modeling of Firefly Luciferase as a Quantitative reporter gene in live mammalian cells. *Biotechnol. Bioeng.* **2004**, *86*, 827–834. [CrossRef]
25. Buhr, E.D.; Yoo, S.H.; Takahashi, J.S. Temperature as a universal resetting cue for mammalian circadian oscillators. *Science* **2010**, *330*, 379–385. [CrossRef]
26. Zanellom, S.B.; Jackson, D.M.; Holic, M.F. Expression of the circadian clock genes *clock* and *period1* in human skin. *J. Vest. Dermatol.* **2000**, *115*, 757–760.
27. Bjarnason, G.A.; Jordan, R.C.; Wood, P.A.; Li, Q.; Lincoln, D.W.; Sothern, R.B.; Hrushesky, W.J.; Ben-David, Y. Circadian expression of clock genes in human oral mucosa and skin: Association with specific cell-cycle phases. *Am. J. Pathol.* **2001**, *158*, 1793–1801. [CrossRef]
28. Kawara, S.; Mydlarski, R.; Mamelak, A.J.; Freed, I.; Wang, B.; Watanabe, H.; Shivji, G.; Tavadia, S.K.; Suzuki, H.; Bjarnason, G.A.; et al. Low-dose ultraviolet B rays alter the mRNA expression of the circadian clock genes in cultured human keratinocytes. *J. Investig. Dermatol.* **2002**, *19*, 1220–1223. [CrossRef]
29. Brown, S.A.; Fleury-Olela, F.; Nagoshi, E.; Hauser, C.; Juge, C.; Meier, C.A.; Chicheportiche, R.; Dayer, J.-M.; Albrecht, U.; Schibler, U. The period length of fibroblast circadian gene expression varies widely among human individuals. *PLoS Biol.* **2005**, *3*, e338. [CrossRef]
30. Pikus, M.V.; Van Spyk, E.N.; Pham, K.; Geyfman, M.; Kumar, V.; Takahashi, J.S.; Andersen, B. The circadian clock in skin: Implications for adult stem cells, tissue regeneration, cancer, aging, and immunity. *J. Biol. Rhythms* **2015**, *30*, 163–182. [CrossRef]
31. Geyfman, M.; Kumar, V.; Liu, Q.; Ruiz, R.; Gordon, W.; Espitia, F.; Cam, E.; Millar, S.E.; Smyth, P.; Ihler, A.; et al. Brain and nuscle Arnt-like protein-1 (BMAL1) controls circadian cell proliferation and susceptibility to UVB-induced DNA damage in the epidermis. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* **2012**, *109*, 11758–11763. [CrossRef]
32. Li, H.; Crair, M.C. How do barrels form in somatosensory cortex? *Ann. N. Y. Acad. Sci.* **2011**, *1225*, 119–129. [CrossRef]
33. Natsubori, A.; Honma, K.; Honma, S. Dual regulation of clock gene *Per2* expression in discrete brain areas by the circadian pacemaker and methamphetamine-induced oscillator in rats. *Eur. J. Neurosci.* **2014**, *39*, 229–240. [CrossRef]
34. Akashi, M.; Soma, H.; Yamamoto, T.; Tsugitomi, A.; Yamashita, S.; Yamamoto, T.; Nishida, E.; Yasuda, A.; Liao, J.K.; Node, K. Noninvasive method for assessing the human circadian clock using hair follicle cells. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* **2010**, *107*, 15643–15648. [CrossRef]
35. Yamaguchi, A.; Matsumura, R.; Matsuzaki, T.; Nakamura, W.; Node, K.; Akashi, M. A simple method using ex vivo culture of hair follicle tissue to investigate intrinsic circadian characteristics in humans. *Sci. Rep.* **2017**, *7*, 6824. [CrossRef]



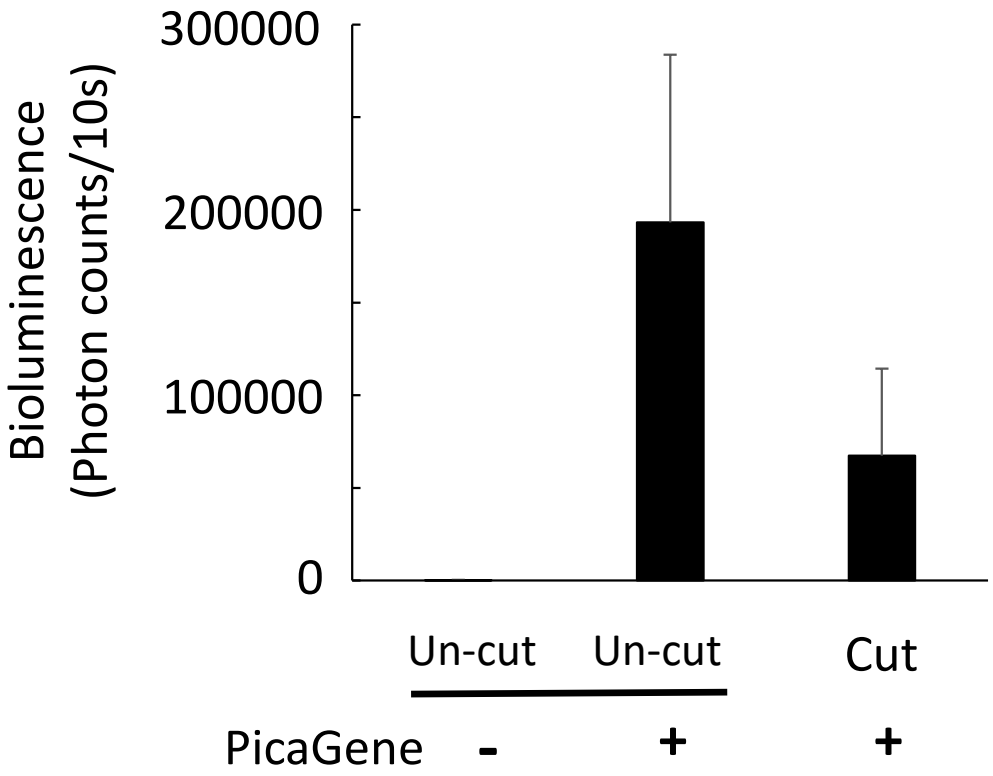




Supplementary Figure S1. Effects of MAP on blood glucose, body weight, and water intake:

Blood glucose content, body weight and water intake during MAP injection. Each plot indicates the mean ± S.D. (*n*=4). There were no differences in blood glucose, body weight, and water intake during MAP injection.

Supplementary FigureS1



Supplementary Figure S2. *Per1* expression in a single whisker hair using the direct method:

– and + indicate the measurement of *Per1* expression with no PicaGene solution and with PicaGene solution, respectively. The un-cut group indicates direct measurement of *Per1* expression in a whisker hair. The cut group indicates the measurement of *Per1* expression from longitudinally cut whisker samples (vertically halved samples). Statistical significance was determined by one-way ANOVA followed by Dunnett's test (n=4 animals) (*P<0.05 vs un-cut (-) group).

Supplementary FigureS2